

整理番号	23 - 13	事務事業名	大曲幸通整備事業		作成部署	建設部都市整備課 区画整理担当	電話	内線765
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	斉藤順二	課長職名	藤井高志	作成日	H16.9月
事務事業開始年度	H18	根拠法令等						
" 終了予定年度	H20							
事務事業の概要	大曲幸地区において組合施行土地区画整理事業が予定されており、区域内を通過し、羊ヶ丘通と国道36号を結ぶ幅員21m、延長約458mの新規都市計画道路を整備する。							

計 画			
上位施策との関連 (総合計画での位置付け)	総合計画(第1次実施計画)	あり	なし
	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち (第 5 章)	
	節	道路と交通 (第 3 節)	
	施策	市内幹線道路・生活道路等の整備 (第 1 施策)	
目的 (ここから成果指標を導きます)	対 象 (誰、又は何を)	西地区の産業機能	
	意 図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	大曲幸地区の土地区画整理事業を補完するとともに、道央圏の交通の要衝という地理的条件を生かし、羊ヶ丘通と国道36号及び道央自動車道北広島ICを結節させ幹線道路へのアクセスルートを充実させ、流通産業機能を高める。	
手 段 (ここから活動指標を導きます)	市が行う事務事業の具体的な実施内容 (補助金等の場合は団体等の活動内容)	17年度	事業認可及び予算要望
		18年度	土地区画整理区域内施行 ・用地買収:5,835㎡ ・移転補償:6件 ・設計費、事務費:一式
		19年度	土地区画整理区域内施行 ・道路築造:300 m 土地区画整理区域外施行 ・用地買収:1,000㎡ ・移転補償:6件 ・設計費、事務費:一式
		20年度以降	土地区画整理区域外施行 ・用地買収:2,288㎡ ・道路築造:158m ・事務費:一式

【費用の予定額】

(単位:千円)

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度以降
直接事業費	国支出金		108,120	203,400	118,080
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源		72,080	135,600	78,720
	合 計	0	180,200	339,000	196,800
人 件 費 (概算)	人 数(年間)	0.10	0.50	0.50	0.50
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= x	900	4,500	4,500	4,500
総事業費 +		900	184,700	343,500	201,300

評価

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		17年度目標値	18年度目標値	19年度目標値	最終目標値
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	用地確保累計面積		5,835㎡	6,835㎡	9,123㎡
	建物等補償累計数		6件	12件	12件
	道路築造延長		0m	300m	458m
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	用地確保率		64%	75%	100%
	建物等補償率		50%	100%	100%
	道路整備率		0%	66%	100%

【1次評価】 担当部局の評価

項 目	判 定	理由・方法等
市が実施する必要性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	市が実施すべき事務事業である 民間等への移管は可能であるが 当面行政で実施すべきである 民間等で実施すべきである	当面は市道予定の都市計画道路であり、市が実施する事務事業である。しかし、道路の重要度から北海道に整備を要請していく。
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	妥当である 概ね妥当である 妥当でない	大曲幸地区のまちづくりに合わせ、それを補完する幹線街路の整備は必要である。
手段の妥当性 【目的を達成するための手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切である 他の手法がある 民間等への委託等が可能である 民間等への一部委託が可能である	整備時期等の課題もあるが、道道としての整備を要望していく。
受益者負担の必要性 【受益者負担が必要または可能である場合、具体的な方法等を理由等の欄に記入してください】	受益者負担を求める必要がある 受益者負担を求めることは可能である 受益者負担になじまない	都市計画道路の整備であり、受益者負担になじまない。
事業の有効性 【事務事業の社会的・経済的效果はどの程度ですか。効果の内容を具体的に記入してください】	十分効果が期待できる ある程度効果が期待できる あまり効果が期待できない	沿線に大曲幸地区や既存の大曲工業団地群、西地区の新たな産業・業務団地の拡大構想などが連なる羊ヶ丘通を補完する幹線道路として活用効果が期待される。
事業の緊急性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから緊急度はどの程度ですか】	高い 普通 低い	大曲幸地区の土地区画整理事業と歩調を合わせる必要がある。

【2次評価】 行財政構造改革推進本部の総合判定

判 定	今後の方向性等
実施する 見直しの上で実施する 実施時期を遅らせる 実施について再検討する 実施しない	羊ヶ丘通と国道36号及び道央自動車道北広島ICを結節させる幹線道路で、流通産業機能を高めることができる極めて重要な路線であることから、大曲幸土地区画整理事業にあわせた整備が必要であり、国庫補助による整備を検討する。なお、道路の性格上、道道としての整備を北海道に要請していく。